



2025年 **6月29日** (日)

鳴子公民館ホール (1階) 13時開場

〒989-6811 宮城県大崎市鳴子温泉字鷺ノ巣86番地1

鳴子御殿湯駅 徒歩2分 駐車場有



中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!



- ①映画上映 13:30~
- ②アフタートーク 14:30~
「地域で心豊かな暮らしをつくる」
- ③お茶会 15:45~
※アフタートーク後、交流を深めるためのお茶会を企画しています (自由参加)



遊佐夏子さんによる
ミニLIVEもあります!!

『地域で心豊かな暮らしをつくる』

アフタートーク

映画上映会

仕事・働くということ

『医師中村哲の』



定員 150名
事前申し込み制

料金
一般 1,000円
高校・大学生 500円
中学生以下・障がい者 (介助者1名含む) 無料

お申込み

Tel : 0229-25-4738 E-mail : s-sudo@roukyou.gr.jp

FAX : 0229-25-4739 ※電話受付は平日の13時から17時
※氏名、人数、電話番号をお伝えください

主催：労働者協同組合労協センター事業団 鳴子地域福祉事業所



共催：一般社団法人 日本社会連帯機構

後援：NPO法人鬼首山学校協議会、鳴子国際交流協会、(その他申請中)



申込QRコード

映画について

中村哲先生が亡くなられて2年が過ぎた。改めてその功績を振り返る集会・報道が全国各地で行われている。先生が命を懸けて私たちに伝えてきたものは何だったのか？この度、21年間にわたり先生の活動を撮影してきた日本電波ニュース社に映像を「働く」という視点で再編成していただき、ドキュメンタリー映画作品として完成した。

紛争のさなかで荒野に住民とともに水路を引き、緑の大地を取り戻した取り組みは、そこに住む人々が、ともに働き、ともに生きる場を創った故郷をとり戻したということだ。真の平和は、そこに暮らす人々が主体となり創り出すということを示している。

そのことは、労働者が自ら地域に必要な仕事をおこし、地域を創るという労協運動の歴史とそのまま符合する。「失業・貧乏・戦争を無くせ」というスローガンに表された先人たちの想いと同時に、本作品は「何のために働くのか」「人間らしく生きるとは何か」、労協運動の原点を再確認することになる。いまだに平和が訪れていないアフガニスタンの市民の状況は、雇用の劣化の只中にいる全く自由とは言えない私たち日本の労働者の姿とも重なる。労働者主権を実現する可能性を秘めた労協法施行を迎える中で、改めて「働くとは・労働とは何か」、「真の地域の復興とは何か、市民主体の地域づくりとは何か」、本作品を通じて多くの市民とともに考え合いたい。

アフタートークについて

労働者協同組合は、組合員全員が出資・運営し、地域や利用者と連携して持続可能な社会の実現を目指しています。2022年に施行された「労働者協同組合法」により、3人から法人設立が可能となり、全国各地でそれぞれの地域に合わせて活用されています。

そんな労協法の活用と合わせて、「地域で心豊かな暮らしをつくる」をテーマに、福祉、教育、子育て、観光などの視点から地域の皆様の想いや願いをカタチにするきっかけとなるようなアフタートークです。



大沼 幸男さん
(おおぬま ゆきお)

「NPO法人鬼首山学校協議会」にて理事長兼校長を務める。

また、「鬼首地域づくり委員会」委員長、「鬼首温泉観光協会」会長も務めている。

受賞歴

- ・みやぎ地域づくり大賞
- ・地域づくり総務大臣賞



齋藤 理さん
(さいとう りすん)

ガイド、観光プロテューサー、アウトドアリーダー

地域の暮らしぶりに触れる滞在型のエコツアー商品造成を行っているツアー企画・ガイド会社、「SomeSpice合同会社」を2023年に設立。

「鳴子まちづくり株式会社」取締役や「鳴子温泉もりたびの会」理事など、活動歴多数。

労働者協同組合
労協センター事業団
鳴子地域福祉事業所

所長
瀧島 孝子
(たきしま たかこ)
副所長
高橋 良子
(たかはし りょうこ)

・2005年
介護予防ステーション
なるっこ 開設
マシンを使ったりハビリが特徴のサービス

・2012年
小規模多機能型居宅介護支援事業所
玉ちゃんの家 開設
住み慣れた自宅での生活を続けられるように支援をする施設

・2018年
就労継続支援B型事業所
まるちゃん家 開設
障害のある人もない人も、一緒にテーブルを囲んで働く場所

申し込み用紙 (FAXの場合はこちらに記入してお送りください)

氏名 (代表者)	(フリガナ)	人数	
電話番号			